

稲作情報(Vol.7)

令和8年7月23日

石巻地方米づくり推進本部

宮城県石巻農業改良普及センター

TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

7月中旬の気象経過

7月中旬の気温は、おおよそ平年並みで推移しました。

日照時間は平年よりやや少なくなりました。降水量は平年並みで推移し、7/14に74.5mmのまとまった降雨がありました。(図1)

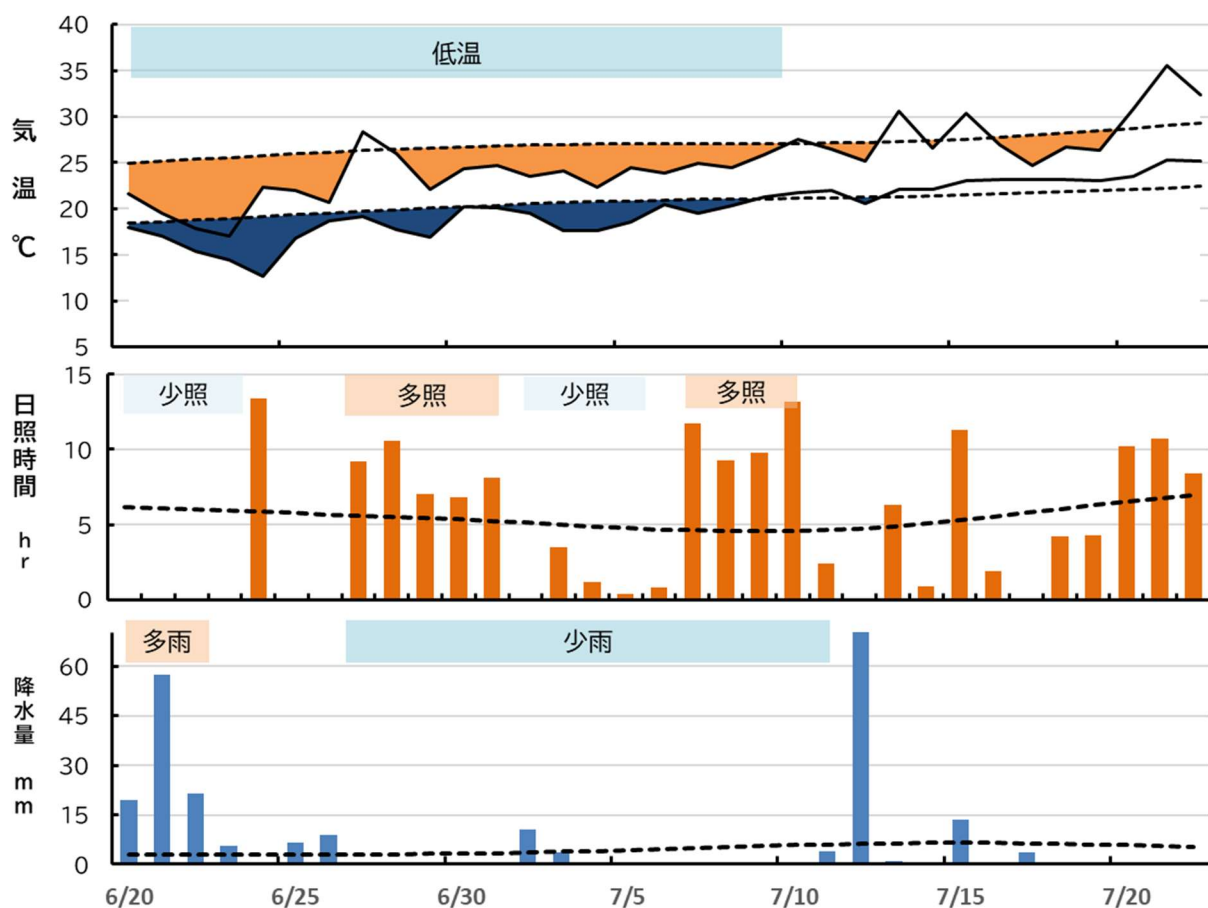


図1 田植後の気象経過(アメダス石巻)

※平年値はアメダス5カ年平均

水稻の生育状況

＜移植栽培＞(表1、図2,3)

- ◎ 草丈は、66.4～72.7cmで平年比92～101%で、ひとめぼれは平年よりやや短く、ササニシキは概ね平年並です。
- ◎ 茎数は、376～635本/m²で、前回調査より減少しているほ場がほとんどです。平年比は69～126%と、ひとめぼれで平年より多く、ササニシキで平年より少ない傾向です。
- ◎ 葉数は、11.4～12.9枚で、ひとめぼれでやや多く、ササニシキでやや少ない傾向です。
- ◎ 葉色は、ひとめぼれで1.5ポイント程度高くなっています。ササニシキは概ね平年並です。
- ◎ 幼穂長は69～156mmとなっており、全ての調査ほ場ですでに減数分裂期を迎えています。5月上旬田植えのほ場は、7月末には出穂期を迎えるものと推定されます。

<乾田直播栽培> (表 1)

- ◎ 草丈は平年並です。茎数は、ササニシキで平年よりやや多く、ひとめぼれで前年を下回っています。また、ひとめぼれほ場で、葉数が前年より 1.4 枚多く、葉色は 2.5 ポイント淡くなっています。
- ◎ 幼穂長は 19.4~42mm で、減数分裂期は 7 月 1 9 日から 22 日で、出穂期は 8 月上旬となる見込みです。

表 1 調査結果 (7 月 2 1 日現在)

品種名	地区名	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
ひとめぼれ	石巻市広瀬	71.3 (94%)	511 (106%)	12.9 (+0.7)	35.0 (+1.3)	156 (+49)	7/7 (+2)	7/15 (0)	
	東松島市矢本	69.2 (92%)	635 (126%)	12.3 (+0.1)	36.1 (+1.6)	106 (+7)	7/7 (+2)	7/16 (+1)	
	ひとめぼれ平均	70.3 (93%)	573 (116%)	12.6 (+0.4)	36 (+1.5)	131.1 (+28)	7/7 (+2)	7/15 (+1)	
ササニシキ	石巻市桃生	66.4 (95%)	376 (69%)	11.4 (-0.7)	32.1 (-0.4)	105 (+49.2)	7/10 (+2)	7/16 (-2)	
	石巻市稲井	72.7 (101%)	394 (82%)	12.1 (+0.0)	35.8 (+1.9)	69 (-28)	7/10 (+4)	7/17 (+1)	
	ササニシキ平均	69.6 (98%)	385 (75%)	11.8 (-0.4)	34.0 (+0.8)	86.7 (+11)	7/10 (+3)	7/16 (0)	

品種名	地区名	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
乾直ササニシキ	石巻市河南	77.8 (102%)	698 (106%)	12.1 (+0.5)	34.2 (-0.4)	42 (-11)	7/9 (0)	7/19 (0)	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	76.7 (101%)	456 (79%)	11.1 (+1.4)	35.3 (-2.5)	19.4 (+14.3)	7/11 (-1)	7/22 (0)	○ は前年比

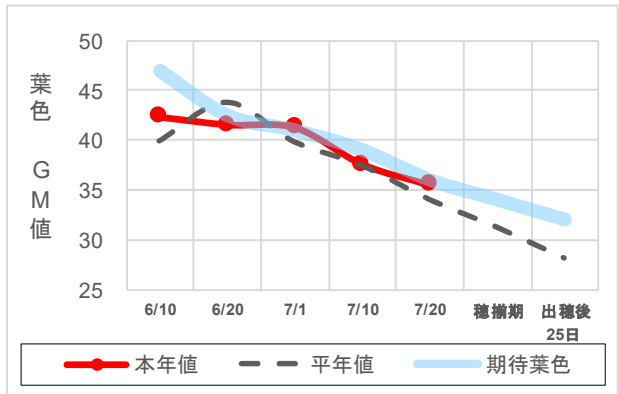
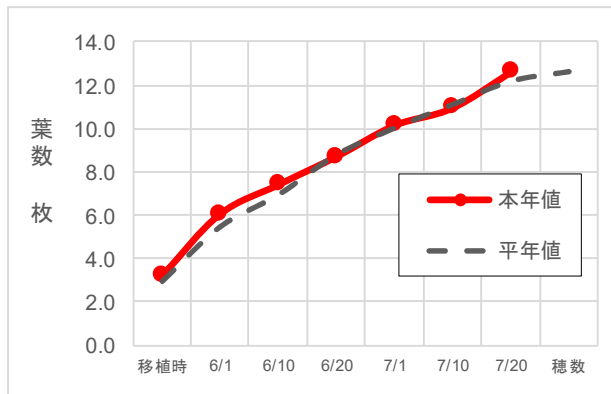
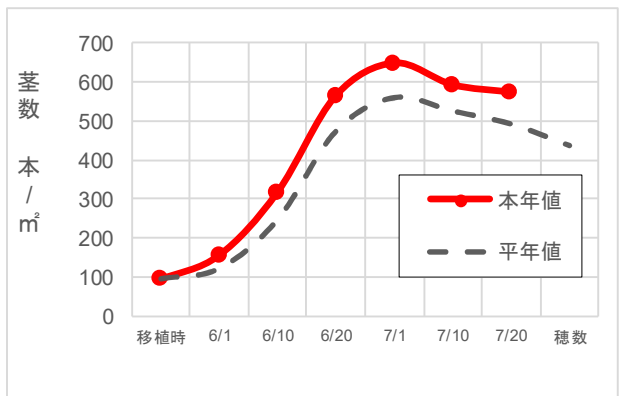
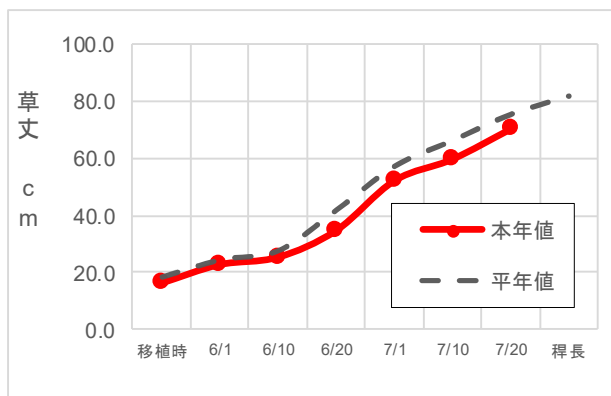


図 2 ひとめぼれの生育経過 (2 ほ場平均)

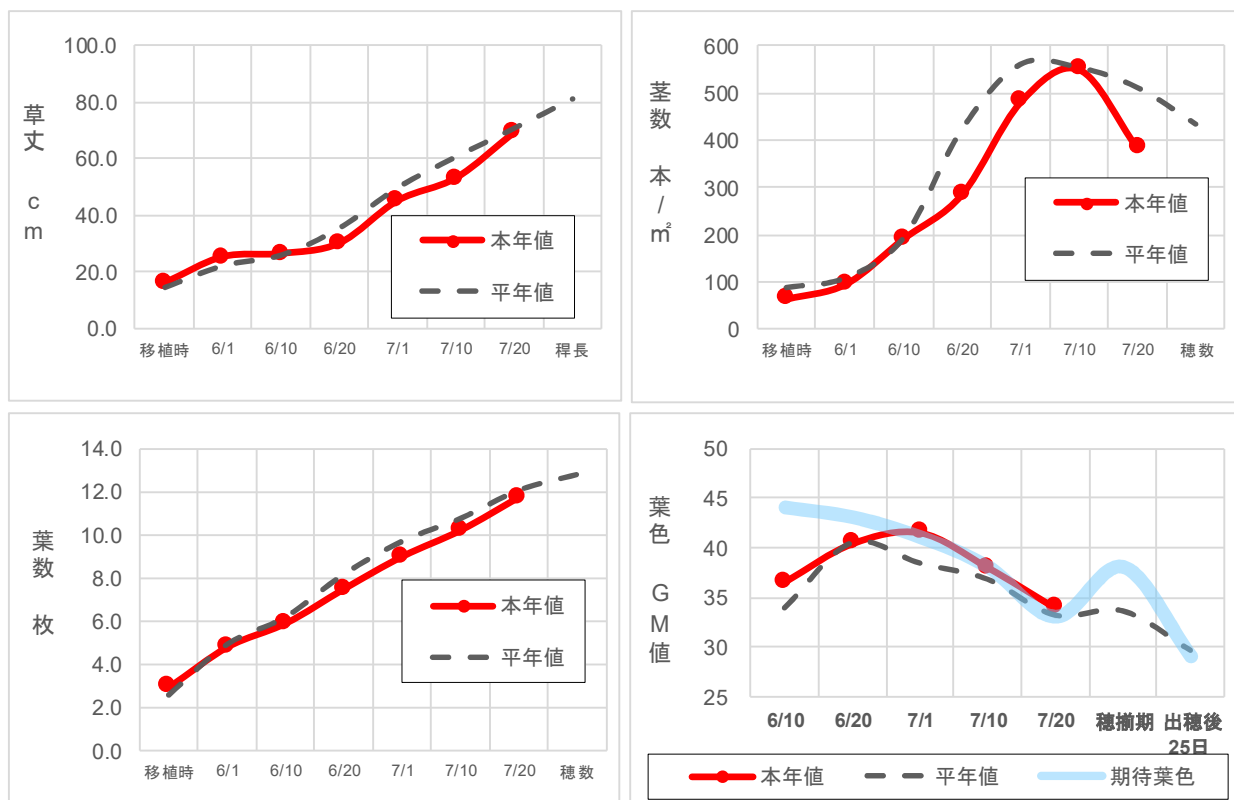


図3 ササニシキの生育経過（2 ほ場平均）

生育ステージ予測（7/21 現在）

出穂は平年より1日早まる

生育予測モデルによる生育ステージの予測では、5/9田植えでは、出穂は7/29で平年（7/30）より1日早いと予想されます。（表2）

表2 生育予測モデルによる出穂期予測

	田植始期 (5%) 5月3日	田植盛期 (50%) 5月9日	田植終期 (95%) 5月23日
幼穂形成期	7月3日	7月7日	7月16日
減数分裂期	7月13日	7月17日	7月26日
出穂期	出穂始期 (5%) 7月27日	出穂盛期 (50%) 7月29日	穂揃期 (95%) 8月6日
平年差	1日遅い	1日早い	2日早い

7/21以降の平均気温は前5か年平均値を利用
出穂期の平年値は前5か年平均値

今後の管理

1 水管理 ～出穂後30日頃までは飽水管理を～

- ◎ **基本的な水管理：**出穂期前後の水管理は、十分に水分を与えつつ酸素を供給する間断かん水とし、出穂期は水を多く必要とするので、浅水管理（水深2～3cm）にしましょう。（図4）
 - ◎ **高温時の水管理：**出穂後5～15日の最低気温が23℃以上の日が連続するような高温の場合、白未熟粒が多発し、著しい品質低下を招く危険があります。「飽水管理」を行うことで日中及び夜間の地温上昇を抑えることが期待できます。（図5）
- ※**飽水管理：**足跡の水がなくなったらごく浅めに入水する（表土が十分湿る程度）。十分な用水の確保ができず「昼間湛水・夜間落水管理」等が難しい地域やほ場では、「飽水管理」が有効です。

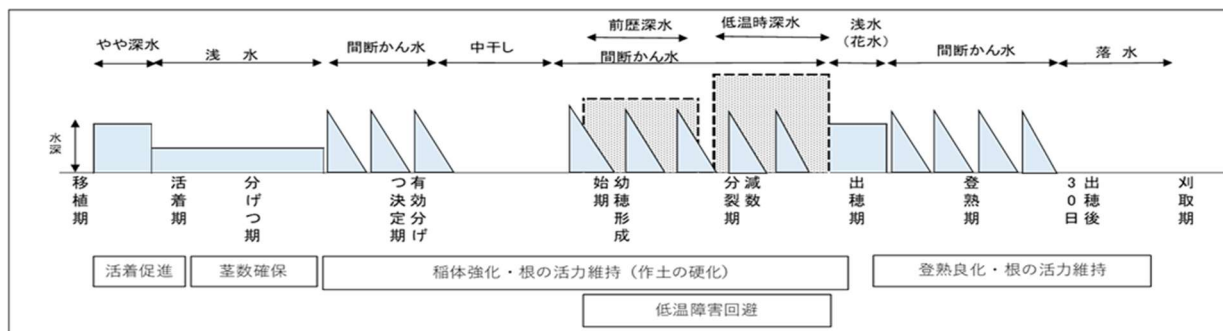


図4 標準的な水田水管理体系

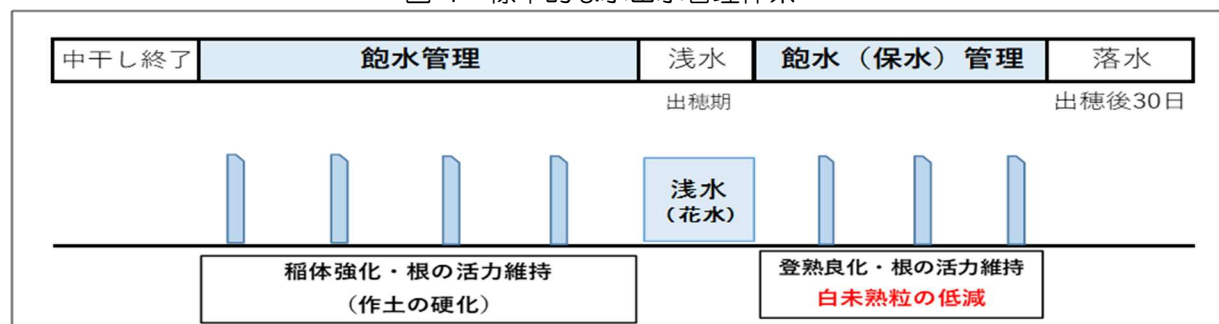


図5 高温時の飽水管理体系

- ◎ 早期落水は、登熟不良や品質低下の原因となるので、出穂後30日を目安に、収穫作業に支障のない範囲でできるだけ遅くしましょう。

2 追肥（詳細は稲作情報V○1.5及びV○1.6を参照してください）

- ◎ 白未熟粒による品質低下は、登熟初期の高温と穂揃期の窒素栄養不足が原因となっています。葉色が淡く、まだ減数分裂期（出穂15～10日前）で追肥可能な場合は適切な追肥を行いましょう。

3 病虫害対策

- ◎ 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ）
- ・発生時期は「やや早い」、発生量は「多」の予想です。
 - ・畦畔の草刈りは控える：すでにアカスジカスミカメの親虫が多発生する時期に入っています。畦畔の草を刈ると、逃げ場を失ったカメムシ類が一斉に水田へ侵入しますので、今後の草刈りは原則控えましょう。
 - ・薬剤防除スケジュール：1回目は穂揃期、2回目はその7～10日後に行う2回防除が基本です。
※2回目の防除以降も斑点米カメムシ類がみられる場合は、追加防除が必要です。
※環境保全米等でやむを得ず1回防除となる場合は、穂揃後3～5日頃に散布してください。
 - ・イヌホタルイの残草時：イヌホタルイの小穂は斑点米カメムシ類の発生源となり、残草は斑点米カメムシ類が集まりやすくなります。1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させることができます。
- ◎ いもち病（葉いもち、穂いもち）
- ・発生時期は穂いもちで「平年並」、発生量は葉いもち、穂いもちとも「平年並」の予想です。
 - ・アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM)では、7月中旬に県内一部で感染好適条件が出現しています。水田をこまめに見回り、早期発見に努めましょう。
- ◎ 紋枯病・稲こうじ病
- ・紋枯病の発生量は「平年並」、稲こうじ病発生量は「やや少」と予報されています。

東北地方 1 か月予報

(7月25日から8月24日までの天候見通し)

令和8年7月23日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。平均気温は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	20	30	50
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北太平洋側	20	50	30
2 週 目	東北太平洋側	10	40	50
3～4週目	東北太平洋側	20	30	50

高温に関する早期天候情報（東北地方）

令和8年7月23日14時30分

仙台管区气象台 発表

東北地方 7月29日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.4℃以上

東北地方の気温は、向こう5日間程度は平年並か低い日が多いですが、その後は暖かい空気に覆われやすいため高い日が多く、7月29日頃からはかなり高くなる可能性があります。

熱中症の危険性が高い状態となります。屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等にも注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には気象解説情報（高温）を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

宮城県農薬危害防止運動実施中！（6月1日から8月31日）

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です！！

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍



ファン付きウェア、ネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを回避したいときに活躍



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活躍



ミストファン